

2017年度帰国生入学試験「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験(芸術学科は小論文)	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験作品利用
日本画			—
油画	植物を持って座っている女性モデルをモチーフとして出題した。デッサン力や絵具の扱い、構成力などの表現の基礎を総合的に見るのがねらいである。	制作意欲、表現への取り組み方、これからの制作の場としてなぜ本学を希望したのか。学生生活におけるコミュニケーションは十分にできるのかなど総合的に判断した。	●
版画			—
彫刻			—
工芸			—
グラフィックデザイン	鉛筆デッサン ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の目的や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか	面接 ・入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
プロダクトデザイン	・理解力=問題の把握、理解が適切か ・発想力=アイデアが優れているか ・独創性=他にないアイデアか ・実現力=アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力=アイデアが伝わる表現か	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイルデザイン			—
環境デザイン	特別入試の空間デザインの試験は、空間を創造する構成力とデッサン力を見るもので、技術的に特別な練習を重ねないといけない出題ではない。出題条件に対して何を考え、どのような効果を意図したのか、そしてその意図がデッサンにしっかり表現されているかが重要である。与えられたハガキ大のダンボール紙とケント紙によって構成する立体作品は、それぞれの素材特性を理解した構成がされているかがポイントとなる。作品の独創性もさることながら、与えられた素材を生かした構成となっていることが大切である。そして制作意図を伝える基礎的なデッサン力を見る。それらは分析力、観察力と、その表現力といってよいだろう。完成した作品を通して、環境デザインに対する空間的な資質と、さらには創作意欲(熱意)が伝わってくるのが期待される。	面接試験では最初に、空間デザイン試験で描かれたデッサンについて、どのようなことを考えたのか、画面に表れていないことも含めて、制作意図を端的に説明してもらう。その後、面接の大半は「多摩美の環境デザインを選んだ理由」「そこで学びたいと思っていること」「将来の目標」など、いくつかの質問を通して、空間的な資質と、創作意欲を感じられるかを判断する。その際は熱意と情熱をもって、状況に合わせた「自分の言葉」で話をすることも大切なことだと考えている。	●
情報デザイン メディア芸術コース			—
情報デザイン 情報デザインコース			—
芸術	出題内容を正確に理解し、論述の着眼点が的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、文章を構成し、まとめる力があるか、といった点が判断基準となる。常識的にまとめた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待している。	芸術学科で何を研究したいのか、受験生の知的能力や知的関心とその研究を進めていくのに十分か、芸術の理論や歴史に関する基礎知識はもっているか、などを判定する。	×
統合デザイン	・理解力=問題の把握・理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか	・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース			—
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザイン コース	鉛筆デッサンは、5種類の質感の異なったモチーフを与えた。それらを想定で組み上げることによって空間構成力を、モチーフの異なった質感を描き分ける観察力と表現力を、光をとらえて陰影を劇的に描写できる感性があるかを探る。舞台美術はプロセミアムを、映像美術はフレーム画角を意識して美術設計を行う。日頃からそのような感覚で空間と対象を見る目を持つことが重要である。また、常に光を意識し独創的でドラマティックな発想をすることが必要である。想定デッサンとなっているのは、モチーフを自由に構成し、情景をも創造してほしいということである。	・学科の特色を理解しているか ・志望動機が明確か ・協調性があるか ・授業への熱意と適応力があるか ・作品の説明が的確であるか	●

全学科共通小論文

(1) 題: 「ふるさとの原風景」という題で、800字程度の文章を書きなさい。

(2) 出題意図: 受験生の「視座」を見る。
・「ふるさと」と「原風景」を積極的にイメージできるか?(想像力)
・「ふるさと」と他の地域との違いを意識しているか?(客観性)
・自らの具体的な体験や知識に基づいた内容か?(独自性)(3) 評価基準: 受験生の「日本語力」を測る。
・出題意図を理解した内容か?(理解力)
・内容を整理し記述しているか?(構文力)
・伝えたいことを表現できる日本語力があるか?(日本語力)